

時事新報

時事新報

去月十七日佛國は内閣が下議院にて敗を取リ首相ゴブレー氏辭職して尋でルビエ一氏が新政府を組織したる事の次第である。其後二月七日之を承認せられ、

第十六百十七號
明治二十年六月十七日
舊丁亥閏四月廿六日
癸未年丙辰四時四十五分
月入午後七時五十六分
巳酉未午初一時五十九分
入午蓮三時零五分
丙午後二時零一分
(癸未正)

軍之ヲ定メ毎年告達スルモノトス〇第四條 幼年學校生徒ヲ士官候補生トナスハ該校長其人名書ニ考科監チ添へ將校學校監ヲ經由シ監軍ニ進達シ監軍之ヲ軍事參議官ニ移ス〇第五條 一年志願兵ノ士官候補生タラントコトヲ志願スル者ハ履歴書ニ履歴書ヲ添ヘ(尋常中學卒業證書ヲ所持スル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ)順序ニ經テ鐵道司令官ニ差出シ司令官ハ各志願者ノ本籍府縣知事(寄留)者ハ其他ノ府縣知事ニ照會シ考分、督造、教育

十二條 土官
セシ者及將校
總例第二十條
十三條 士官
所ノ中隊長ハ
保證書ヲ附「上
聞・更ニ教育
臺司分宮(七三

○勅令
朕陸軍各兵科現役土官補充條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム

御名 明治二十年 六月十五日 御璽

陸軍各兵科現役士官補充條例

第一條 陸軍步、騎、砲、工、兵科現役士官ノ補充ハ陸軍
出身志願ニシテ才能及學力又有スル者ヲ擇シテ士官候
補生トナレ各自ノ希望ニヨリ各種兵隊ニ配賦シ少ナクモ
モ一箇年間特別ノ教育ヲ與ヘ然ル後士官學校ニ分遣シ
卒業ノ上原隊ニ復歸セシメ見習士官トナシ六箇月以上
士官勤務ニ服シタル者ヲ以テス但輜重兵科士官ノ補充
ハ他兵科ノ士官ヲ轉科セシム又憲兵科及屯田兵科士官
ノ補充ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル○第二條 士官候補
生ニ採用シ得可キ者ハ左ノ如シ 其一 幼年學校生徒ニシテ
志願兵又ハ其他ノ者年齢十八年以上二十三年以下ニ
テ常中學卒業證書ヲ持スル者又ハ之ニ同シク學力
有スル者○第三條 士官候補生召募ノ条件略列ハ

下士兵卒同様ニテ官給トス○第十七條 士官候補生ノ起居及其諸給與ハ本人ノ階級ニ應スルモノトス然レトモ其居室ハ一般兵卒ト混同スルコトナク別ニ一室ナシムルヲ要ス○第十八條 士官候補生ハ室内其他諸物品ノ掃除及馬具、馬匹等掃拭ノ爲メニハ兵卒ヲ使役スルコトナ得但馬具、馬匹等ノ掃拭ヲ習得メハメニハ自ラ之ヲ爲サシム○第十九條 士官候補生ハ生兵勤務ヲ終レハ上等兵トナシ而シテ入隊ノ日ヨリ起算シ、幼年生徒ヨリスル者ハ入隊前六箇月ヲ通算ス八箇月ノ後ハ二等軍曹ニ全一箇年ヲ終レハ一等軍曹ニ任スルコトヲ得○第二十條 士官候補生勤務中左ニ掲タル事項ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免シ各階級ニ在テ定期ノ服役年限ヲ終フナム然レトモ費用ヲ支辨スルコトナ得ル者ハ本人ノ請願ニ依リ一年志願兵トナリ服役スルコトナシ許ス但服役計算ノ法ハ入隊ノ日ヨリ之ヲ起算ス其一品行不正若クハ軍紀ヲ棄リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者、其二學力乏シクシテ士官生徒ニ適セサル者、其三將校タルノ才能ニ乏キ者、其四 上官ヨリ認ノラレテ士官候補生タルヲ得ヘカラサル者○第二十一條 前條ノ其一其二其三及其四ニ掲クル者アルトキハ關「大」隊長ハ其事由ヲ悉ナク司令官(歩兵・旅團長ヲ經テ)ニ上申ニ司令官ハ狀ナ具シ監軍ニ馳達ス監軍之ヲ軍事參議官ニ移シ參議官ノ裁定ニ依リ監軍之ヲ處分ス○第二

○陸軍士官學校
陸軍士官學校
明治二十二年十二月上旬
第一條 陸軍士官學校生徒トナシ
フルチ以テ第三種生徒トナシ
ス○第四種班(外國語學)
各兵科チ配属
チシテニ中院授及教育ノハタク
其一教授
兵器學四
國語學
其二 教授
操、四、劍
等々含有有
務、統其他
第六條 本校
メテ同一ニシテ
別ノ練兵並
第七條 本校